

3-2. 雫石町観光商工課（岩手県岩手郡雫石町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】 17,352人（平成27年12月31日現在）

【面積】 608.82k㎡

【地勢】

北東北地方の拠点都市である盛岡市の西方約16kmに位置している。東は、滝沢市、盛岡市に接続し、西は奥羽山系の山々を境に仙北市（秋田県）に接し、南は矢巾町紫波町、西和賀町及び花巻市とそれぞれ連山を境界に、北は岩手山鬼ヶ城稜線を境として八幡平市に接している。その広がりはおおよそ東西24km、南北40kmと広大であり、奥羽山系の山脈に囲まれた扇状の盆地をかたどっている。秀峰岩手山をはじめ1,000m以上の山が連なり、これら山岳や高原が総面積の大部分を占めており、標高300m以上が総面積の約80%に達している。また、山麓部には広大な傾斜地が開かれ、天然林、牧野、田畑がのどかな田園風景をつくりだし、田、畑の耕地は、葛根田川、雫石川、南川の三河川流域に展開している。

【気候、自然】

盆地の影響により、平成17年から26年までの10年間の年平均気温が9.6℃と低く、最高気温は35.6℃、最低気温は-20.0℃と寒暖の差が激しい典型的な内陸性の気候で、気候区分では冷温帯に属します。年間降水量は約1,600mmで、積雪量は最深積雪の平均で72cmとなっている。

【観光】

岩手山や駒ヶ岳などの美しい峰々に囲まれ、泉質も効能も全く違ういで湯が10か所あり、小岩井農場をはじめ、スキー場やゴルフ場も点在し、四季を通じて雄大な自然の中で遊ぶことができる。

【地域資源の概要】

1) 小岩井農場

日本最大級の民間総合農場。小岩井農場の歴史・文化や、現在の農林畜産のこだわり等を紹介するツアー、独特の自然環境を活用した自然観察会などを行っている。第10回エコツーリズム大賞を受賞するなど、当町において先進的なエコツーリズムの取り組みを進めている。

2) 南八幡平エリア

広く十和田八幡平国立公園に含まれる森林地帯や湖沼、山岳、渓谷を含む大自然域。日本百名山のひとつに選ばれている岩手山や、花の百名山のひとつに選ばれている秋田駒ヶ岳など、日本を代表する名峰が連なる山岳高原域で、高山植物の宝庫であり、深い渓谷や高層湿原、火口湖などの優れた自然がみられるほか、エリア内には網張温泉、滝ノ上温泉、国見温泉などの名湯、秘湯が多く見られることから、多くの登山客やハイカーが訪れる人気の山岳エリアになっている。南八幡平エリアの中央部には、白神山地ブナ林（世界自然遺産）に匹敵する規模と自然度で、「葛根田ブナ原生林」と呼ばれる広大な森林渓谷域が広がっている。

●アドバイザー派遣の背景・これまでの取り組み

エコツーリズムの推進は、南八幡平エリアと呼ばれる山岳高原域とその周辺の農村域、牧野域を対象地域において行われてきた。なかでも小岩井農場は、農場内でのエコツアーを開催し、それがエコツーリズム大賞を受賞するなどエコツーリズムの先進地ともいえる場所である。また、町内には第2種の

旅行業を取得している（一社）しずくいし観光協会があり、エコツーリズムを推進する環境は整いつつある。

これまで当町のNPO法人しずくいし・いきいき暮らしネットワークが主体となり、アドバイザー派遣を2回受け、当町を含めた南八幡平地域におけるエコツーリズムについてアドバイスをいただいた。ただし、町が一体となった推進体制がないほか、人材が不足しているため、全町的なエコツーリズムの推進ができておらず、その効果が限定的となっている。町内各団体とも急激な人員増加が見込めない中、エコツーリズムに取り組む体制についてご指導いただくべく、今回エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業へ申請した。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成28年2月17日（水）～平成28年2月19日（金）
場	所	岩手県岩手郡雫石町
ア	ド	アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子氏
参	加	者
		<p><視察></p> <p>鶯宿温泉観光協会、北日本山岳ガイド協会、小岩井農牧株式会社、網張ビジターセンター、（一社）しずくいし観光協会</p> <p><勉強会></p> <p>（一社）しずくいし観光協会、鶯宿温泉観光協会、雫石町グリーン・ツーリズム推進協議会、小岩井農牧株式会社、網張ビジターセンター、NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、自然保護管理員</p> <p><アドバイス></p> <p>雫石町グリーン・ツーリズム推進協議会、小岩井農牧株式会社、網張ビジターセンター、NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、自然保護管理員</p> <p><意見交換会></p> <p>雫石町議会議員、雫石町グリーン・ツーリズム推進協議会、小岩井農牧株式会社、網張ビジターセンター、NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、自然保護管理員</p>
スケジュール・方法		<p>【1日目】（アドバイザー移動）</p> <p>【2日目】町内視察、面談、スノーシューウォーキング体験</p> <p>【3日目】勉強会、アドバイス、意見交換会</p>

(3) アドバイスの内容（議事録）

1) 視察箇所

① 鶯宿温泉観光協会（面談）（鶯宿温泉観光協会事務局長、北東北山岳ガイド協会事務局長）

「鶯宿地区の現状について」

- ・ 宿泊客向けの体験メニューは、各施設がほとんどサービスでやっている状況。
- ・ 各施設への宿泊客向けの体験メニューの斡旋を行う仕組みがない。
- ・ 大規模なレジャー施設が老朽化等の影響により数年前に閉鎖し、その後中小の宿泊施設の宿泊客数に影響がでている。

【アドバイス】

- ・ 宿泊施設側が体験メニューをサービスでやることと思いついていないのは問題。提供体制をつくりながら、施設側の協力を得ることが重要。
- ・ 鶯宿地区は街歩きが楽しそうな風景なのに、それができていない。街歩きのガイドを含めたガイドの養成について地域で一番発言力のある人に理解してもらわなければならない。
- ・ 今回鶯宿温泉の宿に宿泊し、台湾から来た客と話をしたが、ただ泊まって食べるだけの状態で、次の日はすぐ仙台に移動する日程だった。インバウンド客もただ素通りしている。1～2時間くらいで体験できることがあれば、この地域への滞在時間の増加につながる。

「山岳ガイドの現状について」

山岳ガイドの高齢化が進んでいる。登山者も高齢者が多くなり、身近な山（里山）と街場とのミックスをしたい。

収益を得られるような仕組みになっていない。

町が一体となった推進体制がないため、ガイド等は独自の体制で行っている。

【アドバイス】

登山も教室を開きながら行ったほうが良い。ガイドを頼む客はお金を払うのに抵抗がない。



② 小岩井農場（面談、スノーシューウォーク体験）（小岩井農牧株式会社）

「小岩井農場でのエコツーリズムの体制について（説明）」

平成 23 年頃、口蹄疫が流行した問題から、安全、安心なものを提供する体制について解説を始めた。

現在は農場内の歴史や現在の環境関連事業を学ぶバスツアーのほか、自然散策や観察会などの自然体験ツアー、小岩井農場をじっくり学ぶプレミアムツアーなどを行っている。

旅行業は平成 23～24 年頃、バスツアーを行うため取得。

「スノーシューウォーク」

スノーシューを装着し、地元に住んでいる人でも気づかないような自然の環境について説明を聞きながら散策。

ガイドの佐藤氏はもともと一般の客として参加していたが、後に土日のみのボランティアガイドを務め、その後小岩井農場の社員となりガイドを行っている。



③ 網張ビジターセンター

「網張ビジターセンターについて（説明）」（面談：網張ビジターセンター）

網張ビジターセンタースタッフは運営協議会職員で、年間の行事等にはパークボランティア（山岳関係者、自然公園保護管理員、日本山岳ガイド協会（プロ））の力を借りて運営している。

小岩井農場、盛岡市子ども科学館と連携していて、それぞれの得意な分野でガイドを料金フリーで融通し合いながら行っている。

施設の管理や来館者への情報提供もしなければならぬため、イベントに特化できないのが悩み。スタッフは提供できないが、ビジターセンターを場として提供できればと思っている。

④ （一社）しずくいし観光協会

「（一社）しずくいし観光協会について（面談）」（面談：（一社）しずくいし観光協会事務局）

現在観光協会の業務が忙しく人手が足りないため、新たに業務を受け入れるのは困難な状況となっている。

2) 平成 27 年度雫石町エコツーリズム推進会議

① 勉強会「エコツーリズムについて」

エコツーリズムとは、自然観光資源について、知識を有するものから、案内、または助言を受け、知識および理解を深めること。エコツーリズム推進法の第2条「定義」の第2項に書いてある。色々なツーリズムがあるが、推進法としてできているのはエコツーリズムだけ。エコツーリズムは全てのニューツーリズムに通じることであり、この法律を大いに活用すべき。

自然環境が作った伝説・言い伝えを知っているのは地域に暮らしてきた人々。地元の人が地域のことを知れば語りたいたいと思うようになる。商品の付加価値は地域の人であり、地域こそが一番大事である。様々な地域の人を活かして取り組み、人を育てるといふ一番大事なところを担っているのがエコツーリズムである。

小岩井農場がエコツーリズム大賞をとったのも、エコツーリズムを通じて雇用が生じているというところから。流通と集客の技術は必要だが、人づくりをしていくことが大切。

観光のための地域づくりから、地域づくりのための観光を目指すべき。また、その継続化。そして地域主体（全体）で担う体制づくりが必要。

伝説を今の人が臨場感を持って話せることが大事。人を育成する過程は儲からないが、その過程がその後稼ぎ頭になっていく。地元の人が地域の歴史を知って感動し、それをまた別の人へ伝えていく。行政が民間のやれないことを支援していくこと、地元の人が付加価値を体験することがとても大切。

【ワークショップ「これまでの講演をきいて、これから必要だと思うこと」】

(グループA)

地元の人がお互いのガイドを見る必要がある。ガイド技術も参考にして、お互いに高めあっていくべき。

(グループB)

雫石の人が地元を知らない。網張ビジターセンターは観光と一線を画したもののだが、商品として考えることが大事。

(グループC)

細部のコンテンツについて、お互いに知らない部分も多い。昔語りのガイドについて、パイプはあるが臨機応変な対応ができないことが課題。連携と人材育成を同時に行っていく必要がある。



②アドバイス「エコツーリズム推進組織体制について（前例等）」

以前からかかわっている京丹後市では、まず資源を再確認するところから始めた。よそにない、非日常が味わえること、もの。ただ、雫石はすでに商品がたくさんある。ガイドも山岳ガイドや観光協会で過去に養成した人々がいる。

続いて、仕組みづくり。いつでもお試くださいの仕組みがつかれるかがポイント。いつでもという演出が2～3時間の商品をどこで販売するか。丹後の場合は道の駅で販売するため、道の駅が旅行業を取得した。雫石は（一社）しずくいし観光協会と小岩井農場がすでに旅行業を取得しており、売る場所はすでにある。

雫石は商品も売る場所もある。それをつなぐ人がいないのが問題。それぞれ皆忙しいなかで、その役目を誰が担っていくかがポイントで、水平的な枠組みがないなか、公の立場にたって見つめなおすことが重要。皆黒子役が必要だと感じているが、誰がやるかは言えない。利害等ある中で、各団体を誰がつなぐのか。過去の事例では地域住民がつなぎ役になる場合も多かった。

③意見交換会「雫石町での体制づくりについて」

(参加者)

これまで町内でエコツーリズムに関して中心的な役割を果たしていたNPO法人しずくいし・いきいき暮らしネットワークがエコツーリズムに取り組んだのは県のエコツーリズム事業に取り組んだところ大きな反響があったため。県の事業を利用して町内の神社を訪れたり、自然体験に取り組んだりして、モデルツアーを作った。本当は観光協会が担うべき役割だが、今は手一杯の状況。最初は行政がやってみてはどうか。

(渡辺氏)

雫石町では協議会等かっちりとしたものではなく、ゆるやかなネットワーク的な組織があうのではないか。組織としては協議会と称するしかないかもしれないが。そうすれば皆抵抗なく受入れられるのではないか。

(参加者)

組織の立ち上げの部分だけでも行政が主導してほしい。

お互いがお互いを良く知るために、まず知ることに力を入れてみてはどうか

(渡辺氏)

稲取では商品ラインナップのチラシを作成した。雫石では商品は既にあるのだから、最少催行人員と時間、予約は何日前まで等の情報を載せた一覧表をまず作ってみてはどうか。

(参加者)

受入側も体制を作る努力が必要。チラシがあれば紹介しやすいと思う。

(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

これまでエコツーリズムに関して先進的な取り組みを行っている事業者から、エコツーリズムに関して全く知らない観光関係者まで、エコツーリズムについて理解を深めることができた。そして、エコツーリズムを知らなかった関係者でも、自分が行っていたことがエコツーリズムだと気づくこともできた。エコツーリズムの商品の幅が広がり、今後はその一つひとつをつないでいくことで、すぐに実践ができそうなどころまで進むことができた。

2) 今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

これまでどこが主体となるかで進まなかった推進組織の立ち上げについて行政が主導して取り組み、ゆるやかなネットワーク型の組織体制を確立する。

3) 今後の取り組み

組織立ち上げ以降の取り組みとして、体験リストの作成、ガイドの相互交流・連携、ガイドの育成が必要。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

アドバイザーがこれまで取り組んできた京都府京丹後市の事例、静岡県伊豆稲取の事例、茨城県常陸太田市の具体的事例。

2) その他感想

渡邊アドバイザーの過去の取り組み事例や、具体的な数字（金額）を織り交ぜながらの説明が実際の現場を想像しやすく、今後の雫石町での取り組みへの大きな参考となった。

雫石町はすべてそろっている、あとはそれを繋ぐ人だけという言葉も、参加者の大きな自信に繋がったのではないかと感じた。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

渡邊 法子氏 (アイ・エス・ケー合同会社 代表)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

雫石町にはエコツーリズム大賞ならびに特別賞を過去に3度受賞している小岩井農場をはじめ、山岳ガイド、自然観察ガイド、地域に伝わるおとぎ話の伝承など、複数団体の地域住民によってエコツーリズムの推進活動が展開されており、これまでの住民による取り組み意欲ならびに成果は大いに評価できる。

②課題

岩手県雫石町のエコツーリズム推進の窓口の一本化を図るため、まずは域内の活動団体の連携強化が課題である。さらに今後、継続する事業として推進できるよう、域内のコーディネーター、ガイドなど適材適所の人材養成が課題である。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

- エコツーリズムにとって欠かせない山、川、森、温泉、文化等の豊富な自然観光資源が豊富である。また新幹線発着の雫石駅を有し盛岡市と隣接している等、交通に恵まれている。鶯宿、網張、つなぎ等の豊かな温泉地の存在、またそれに伴う宿泊施設の充実も恵まれた点である。(約200万人の観光施設利用者、36万人の宿泊客数)
- 岩手山南麓に位置する3,000haの小岩井農場は、これまで積極的にエコツーリズム推進事業を積み重ねており、その集客活動のなかからガイドの養成、地元ボランティアガイドの起用、地元における雇用の創出を実現している。また過去にエコツーリズム推進アドバイザー派遣事業の事業主体者として事業を実施したNPO法人いきいき暮らしネットワークも地道に住民活動を継続している。これらの地域資源は雫石町がエコツーリズムを推進するにあたって最も大きな力であることを感じた。
また雫石町観光協会も、小岩井農場も旅行業を取得しておりエコツーリズムの流通に係る窓口がすでに2ヶ所ある点も大きな強みである。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

豊富な自然観光資源を、春夏秋冬における四季それぞれの魅力や当該地域で暮らしてきた人々の暮らしの知恵を活かした「商品力」とすることができる。またもともと持っている「集客力」を十分に活かすことも可能な地域である。

今回は小岩井農場でのスノーシューウォークによる自然観察ガイドツアーを体験した。雪の中を歩くことも楽しく、同行した雫石町育ちの若者も「めったに雪の中を歩くことはない。」と言う。今回はツアーを初めて体験しガイドさんから地元の自然の生態系を数々紹介され、「子供のころから触れてきたこの自然界の中に、これほど感動することがあったのか?」と大いに驚いていた。

エコツーリズム商品の魅力は、常に見てきた景観、自然であっても、語る人（ガイド）にその知見を学ぶことによって感動することであり、まさに遠方からの誘客だけではなく地元民も体験し感動する「旅」として位置づけられるのではないだろうか？

雫石町観光協会が主催で数年前に地域自然観察ガイド養成講座も実施されていた経緯がある。網張ビジターセンターにおいても季節ごとに魅力的な行事が頻繁に実施されている。当該地域に伝わる伝説をお年寄りからヒアリングし、まとめて語りの会を開催しているNPO法人いきいき暮らしネットワークや山岳ガイドの存在など地域資源の掘り起こし、人づくりが各団体によって地道に推進されている点が素晴らしい。

3) アドバイス（講義等）の概要

① エコツーリズムとは何か？エコツーリズム推進法の定義に基づき確認。

- 徹頭徹尾、わが地域ならではの、もともとあるもの、他の地域に対して差別化できる自然観光資源を活用する。
- 語る人がいなければエコツーリズムは成立しない。
- 付加価値を求める「旅」としての商品化が必要であること。

② エコツーリズムによる効果

- 地域資源の再発掘を地域の人の手で実施することの意義は大きい。
- 地域における担い手の掘り起こし、育成事業に真剣に取り組むことで次世代を担う「人」を、継続してわが地域に育てることができる。
- 商品造成としくみづくりにより、継続的な事業化を実現することができる。

③ ワークショップ

各活動団体で地道に取り組んできた当該地域でのエコツーリズム推進には、今後、各活動団体間の連携強化が課題であり必要不可欠と考えた。そこで急遽ワークショップを開催し相互理解の機会の創出とした。雫石町エコツーリズム推進協議会設立への機運となった。

④ 上記①②について事例を通してアドバイス（伊豆稲取温泉、京丹後市）

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

胎動期ではあるがそれぞれの活動団体は地道に取り組んできた。全体構想への場づくりが必要不可欠である。

②全体構想策定への意向について

雫石町が主導しつつ場を設置していく方向づけができた。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

雫石町エコツーリズム推進協議会の設立。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

全国の模範的な取り組みを各活動団体が地道に重ねて来たことに誇りを持ち、雫石町の各団体が相互に理解し合い、連携強化を強めてほしい。役割分担を図ることによって持続可能な事業としてのエコツーリズムが当該地域で推進され、全国模範のエコツーリズムの流通も実現可能な地域であることを確信し、今後の雫石町に大いに期待したい。